

竜王北中学校 学校関係者評価書

平成31年2月15日（金）
（竜王北中学校）学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成31年2月1日（金）午後5時～6時15分

会 場：竜王北中学校校長室

参加者：（学校関係者評価委員）

石合廣光 吉村広人 田中陽子 小尾裕子 赤池裕樹 中嶋政彦
（学校側）
小林大 小林雅人

I 学校側から提案された内容

- ・平成30年度自己評価書
- ・平成30年度自己評価シート集計結果

II 協議された主な内容

- ・平成30年度自己評価書についての意見及び感想。
- ・本校の教育活動についての質疑とそれに対する意見および今後の改善策。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・肯定的な回答（A「とてもそう思う」B「そう思う」の合計）がほぼ全項目（50項目中47項目）で85%を超えている。学校運営が概ね良好な状態にあると言える。
- ・肯定的な回答率が低い（85%未満）あるいは平均値が低い（3.0未満）項目は、「多忙化解消のための取組の成果」「個に配慮した授業」「地域の人材や地域の教育力を生かす指導」の3項目であった。これらは、現在の竜王北中学校の課題である。
- ・昨年度課題項目だった「危機管理マニュアルの理解」「教材教具、備品等を活用した授業」「考え、議論する授業（主体的・対話的で深い学びを意識した授業）」「保護者・地域の願いを聞く等、情報収集の機会の確保」の4項目は、今年度改善されてきている。
- ・提示された改善策をより具体的なものとして実行し、PDCAサイクルを確立して行ってほしい。

II 特 徴

- ・県指定の「道徳教育研究推進校」として、「自ら学び、考え、判断し、心を磨いていく生徒の育成～考え、議論する授業の実践研究を通して～」という研究主題のもと、道徳教育に関する研究実践を3年間行ってきた。「特別の教科道徳」の授業研究だけでなく、全教科において「考え、議論する授業」をめざし、北中ボードや付箋紙等も活用した。また、実践的活動研究として、「生活習慣向上への取組」「地域と一体となった活動」「小中連携活動の取組」「生徒会での取組」等を行ってきている。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

〈多忙化解消ための取組〉

- ・教職員が「生徒と向き合う時間」を確保するためにも、多忙化解消は喫緊の課題である。教員が心身共に健康であることが、生徒に対しても良い影響を与え、教育効果を上げることに繋がっていく。今後も継続して、業務改善に努めてほしい。
- ・教員は時間の無駄遣いが多すぎると言われている。仕事内容の精査、簡素化を行う余地がまだあるのではないか。「何のために行うのか」を問い直し、行事等をスリム化することも考えていきたい。

〈個に配慮した授業〉

- ・小グループによる話し合い活動等は、だいぶ行われるようになってきている。これからは、教師が全て教えるのではなく、生徒が生徒を教えたり、生徒どうしが学び合ったりする授業を工夫したい。
- ・T T（ティーム・ティーチング）において、T 2（補助的な役割をする教員）が生かされない場面が多くある。1 クラスを2 つに分けて授業をすることも考えていきたい。それによって、きめ細かな学習指導を行うことができる。

〈地域の人材や地域の教育力を生かす指導〉

- ・地域の人材や教育力を生かしていくことが、生徒の豊かな成長を促し、教職員の多忙化解消へも繋がっていく。将来的なC S（コミュニティスクール）への移行を見据えながら、今からP T A組織や学校評議員会の在り方についても考えていきたい。

〈いじめ・不登校等の早期発見・早期対応〉

- ・「相談できる友達や先生がいない」という生徒が少数ではあるが存在する。誰にも言えない生徒をどうするか、しっかりとした対応をお願いしたい。S C（スクールカウンセラー）や外部機関（児童相談所・中北教育事務所・甲斐市青少年育成カウンセラー等）の相談窓口を生徒や保護者に周知することも大切である。
- ・中学生時代は、いじめが多くなる時期でもある。生徒一人一人を認め、自己肯定感が持てるような学校運営を実現したい。そうすることで、生徒はおのずから伸びてくる。また、道徳教育や体験活動などを通して、思いやりの心を育てていきたい。

〈スマートフォンの使い方〉

- ・S N S（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及に伴い、スマートフォンの使用から犯罪に巻き込まれる事例が増えてきている。学校でも、その危険性について発信したり、保護者の協力も得て「家庭のルールづくり」をしたりしていく必要がある。

※特記事項

- ・教育における全ての基本は「子どもファースト」（生徒を中心に考えること）にある。

記載責任者（竜王北中学校 学校関係者評価委員長）氏名：石合 廣光 印

